

# 林美香子の「農都共生のススメ」

## フォーラム2を開催 午後の交流会にも二十余名

NPO法人を目指す「ふらっと南幌」主催の「アグリルネッツサンス南幌フォーラム」の第二弾が、十二月六日、ビューロー三階会議室で開かれた。基調講演は林美香子さんの「農都共生のススメ」。北海道を元気にするための参考として道内外の事例や農業国フランスのリヨン朝市、ポツポツチーズ、農家民宿などを会場スクリーンで紹介した。続いて行われたパネルディスカッション「南幌の安全安心な食について」では、久保むつ子さんと松本豊美さんを加えて「現金は大好き」など本音を披露、四十余名の聴衆を笑わせる場面も。終了後の交流会も笑いが絶えず、熱い集会となった。

## 林美香子さんのプロフィール



キャスター  
エコライフジャーナリスト  
慶応義塾大学大学院SDM研究科教授  
(システム・デザイン・マネージメント)

札幌出身。北海道大学農学部卒業後、札幌テレビ放送アナウンサーを経て独立。現在、AIR-G「ミカコマガジン」担当中。「食育」「農業」「地域づくり」などのフォーラムに、パネラー・講師・コーディネーターとして参加。農林水産省「食と農の応援団」メンバー。著書「農都共生のヒント～地域の資本の活かし方」など。

## 地域再生はポトムアップ

都市部のライフスタイルは変わって来た。グリーンツーリズム（農村でゆっくりと過ごす休暇）が脚光を浴びている。食と農を基軸としたレジャーや癒しの追及だ。加えて、日本の農政の変化も見逃せない。有機農法を推進するなど、農村の多面的機能を評価して来た。地域の再生は民間主導（ポトムアップ）で。南幌こそ可能性がある。

## 九州ツーリズム大学

熊本県小国町に二泊三日の宿泊研修する大学がある。講義と実習体験が主。地域の資本（自然、人的、物的、金融、ソーシャル・キャピタル）を生かした実践だ。起業が多くなり、商店街へは好影響だという。古い時計店の蔵を改造した会員制の商家民宿や居酒屋民宿の新発想。長沼の農家民宿も参考に。

## 地産地消にこだわる十勝

一箇所に二十軒の屋台が集中する「北

の屋台」は有名だ。バラエティに富んでいるので、目移りする。出発の資金は四十万、一人一万円。食文化環境、田園ライフスタイル、都市構想をキーワードに取り組んだ。徹底的に「十勝」にこだわり、どの店も地元産を使った料理を出す。カラフルトマトサラダは切っただけなのに大好評。トイレは水洗、中央広場ではイベントもやり女性に人気だ。

## 農産物の高付加価値化

地域の資本を生かして成功している所は多い。おしゃれな店構えで商品を実際立させているJA美瑛の直売所。ログハウスの講習とバイキングメニューに特徴のある鹿追ファームイン。地域力アップに貢献している長沼のクレス。奇跡の第三セクターのマップカーリーナ。どの店も農家との連携は密だ。銀座の北海道DISSHESは販路拡大には打って付けの場所。フランスも小粒でもキラリと光る所が多く習いたい。情報の受発信が大事。

## パネルディスカッション 「南幌の安全安心な食について」

パネリスト

林 美香子さん

久保 むつ子さん（久保農産）

松本 豊美さん（松本農園）

コーディネーター

濱田 暁生



緊張の中にも和やかな雰囲気弾む会話

**久保** 取れたて農産物を直売所で売って二五年。お客さんは温泉等の帰り道。客が客を呼ぶ情報網が出来れば。売れて現金を見るとうれしくなる。お金が一番だ（笑）  
**松本** 950羽をハウスで平飼。飼料は循環型で生ゴミや屑ゴミが主。トリは死ぬまで面倒を見る。孫の口に入る安心自家野菜を販売。自分で店頭に立って説明している。運河にホタルが戻ったことは本当にうれしい。

**林** 農家の方は「お金が大事」となかなか言えずに値引きしてしまう。田んぼの農薬が少ないからホタルが生息できる。それだけで「ブランド力」が高まる。食の安全安心を主眼に流通を考えて大いにPRしたら経営が安定する。冬期の加工品も作り斬新なパッケージで付加価値を。

アグリルネッツサンス南幌フォーラム3  
1月下旬頃開催予定。

▼農都の観光をテーマ▲（仮）

ふらっと南幌  
www.flat-nanporo.com